令和６年度未来を創る学力向上支援事業に係る未来を創る授業力向上協議会（中 国語）

１　目的

各中学校（義務教育学校後期課程を含む。以下同じ。）の国語科の教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及び授業改善に関する講義・説明等を行うことにより、国語科教員の指導力向上を図り、もって生徒の学力向上に資する。

２　主催　大分県教育委員会

３　期日　令和６年１０月１５日（火）13:30～16:25

４　場所　大分県教育センター　４階・講堂

５　内容

（１）開会行事「大分県教育委員会あいさつ」　　大分県教育庁義務教育課　参事　山川　明宏

令和６年度の県・全国調査結果を基に、実態に応じた授業改善に取り組んでいることと思う。調査結果の公表以降、読解力の低下がフォーカスされている中、読売新聞では「SNS の利用等による読解力の低下の可能性があるのではないか」や「何か手立てはあるのか」など、保護者の声を取り挙げている。

「学びに向かう力」の育成、「知識及び技能」の定着、「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指し、全県的な授業改善が図られることを願っている。

（２）行政説明及び協議「大分県の中学校国語科の課題と授業改善」

〈説明者〉大分県教育庁義務教育課　課長補佐兼指導主事　瀧口　忍

「１　学力調査の結果から見える課題」

○令和６年度全国学力・学習状況調査結果（市町村立学校）

・領域別では、「我が国の～」の領域では全国平均を上まわっている。

・観点別では、「知識・技能」で全国平均を上まわっている。

→低学力層に着目すると、全国平均より対象生徒の割合が多いことが課題である。

○令和６年度大分県学力定着状況調査結果（市町村立学校）

・三つの領域すべて全国正答率を上まわっている。

・つまずきが見られた問題

→読解２９．５％、漢字の部首１６．４％、

読解から自分の考えをまとめる２５．２％

○学力調査の目的と調査の分析

・これを児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立ててほしい。

・生徒の困りや課題を捉えるために、正答率に加えて無解答率にも着目する必要がある。

→３つの項目において、無解答率が全国平均の割合を超えている。

「２　課題解決に向けた授業改善の取組」

○調査結果から授業改善を考える

□課題が見られた問題

・目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかを見る問題。

■調査結果から見える生徒の実態

▲目的に応じて必要な情報を不足なく取り上げて書くことができていない。

→情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめる

（目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる）

目的を明確にした上で要約に取り組む

→◎授業者の課題として…、

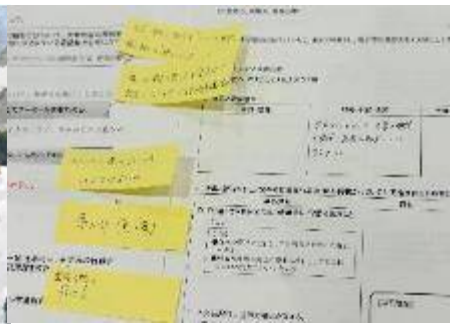
「毎回、文章全体を単に短くまとめるような要約に取り組ませていないか」

▲自分が書いた要約と本文の内容に齟齬がないか見直すことができていない。
→「自身の学習状況と向き合う場面」、「形成的評価の実施」が必要である。
→◎授業者の課題として…、
「全ての生徒が目標を達成できるよう、適切なタイミングで生徒の学習状況を見取る」
「困難と判断した生徒に、適切な手立てを講じる」

☆課題解決に向けて必要な授業改善
⇒授業者が指導事項を明確にして単元を構想すること
⇒『①（生徒）が自身の学習状況と向き合う場面』と『②適切な形成的評価の実施』を意識して、指導計画を立てること

「★協議」
「教科書会社が作成した『少年の日の思い出』の指導計画を再考し、①②を意識した指導計画に作りかえる。」
⇒①（生徒が）自身の学習状況と向き合う場面　②適切な形成的評価の実施
（※授業者が指導事項を明確にして単元を構想すること）

〔1　自己紹介〕
〔2　ゴールの確認〕
〔3　指導計画の再考〕
(1)指導事項の確認（精選）
・「指導事項」⇔「評価規準」
(2)指導事項を身に付けるための言語活動の確認と学習課題の設定
・【言語活動 C(2)イ】小説を読み、**考えたこと**を伝え合う活動
→学習課題として、授業者が生徒に何を考えさせるかを明確に設定する必要がある
→県で採用されている３社ともに、明確な学習課題は設定されていない
例えば…、
「『ぼく』はどうしてエーミールを憎むのか」
「『ぼく』が闇の中でつぶしたものはチョウだけなのか」
(3)生徒が、自身の学習状況と向き合う場面（粘り強さの発揮や学習の調整を行う場面）の設定
(4)教師が、生徒の学習状況を適切に見取り、形成的評価を行う場面（総括的評価につながる生徒の学習状況を適切に把握し、必要に応じて手立てを講じる場面）の設定



「まとめ」
〇大分県教育センター「フォローアップ研修」より
・「コスパ向上のために取り組んでいることはありますか？」
→優先順位をつけて取り組む。指導書通りに授業をする。リストを作成し、計画的に取り組む。時間を決めて取り組む。
☆指導書通りの授業では無理が生じるが、指導書を参考に授業を考えていくことも一つの方法。
そのためには、やはり「教材研究」がポイントとなる。
☆「教材研究」⇒「主体的な学び」として子どもの手柄にすることが「授業」であると考えたい

（３）講義「魅力ある国語の授業づくりに向けて」
講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官・学力調査官
鈴木　太郎　氏

【令和６年度全国学力・学習状況調査結果】

○大問１・設問４の問題文

「フィルターバブル現象」をきっかけに、
「フィルターバブル現象と本の選び方」について
生徒が話し合う場面
→あなたなら、これからどのように本を選びたいか？

・誤答（１５．１％）
話し合いのシナリオを読んでいなくても書ける解答
フィルターバブル現象についてまとめているのみ　→　※授業では見過ごされがち

・誤答（１６．９％）
情報的に、指導者でさえ正答であると誤って捉えてしまう解答
他の人の意見をつないで、フィルターバブル現象についてまとめている
→　※正解と捉えてしまいがち

・無回答（９．７％）

思判表Ａ（１）オ
「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること」
⇒　☆ここが両方とも達成されなければ、力が育成されているとは言えない。

○大問２・設問４の問題文

イ「筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているか」について要約

・誤答（３６．１）
法則がある、法則がないことのみに集約して述べている
→　※子ども自身の一方的な見方のみで判断している

・無回答（８．３）

思判表Ｃ（１）ウ
「目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして内容を解釈すること」
⇒　☆目的を明確にした上で、目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約できるようにすることが大切である。

【資質・能力の育成に向けた授業改善のポイント】

○結果からみる成果と課題
・授業では、言語活動に取り組ませており、生徒も言語活動に取り組むことはできている。
・一方で、目標とする指導事項の重点を置くべき内容に着目して資質・能力の実現状況を把握し、生徒に学習改善を促すこと（生徒が主体的に学習に取り組むこと）が十分に行われていないのではないか。
↓
○指導要領の読み込み
・学習過程　・指導事項（資質・能力）　・言語活動
↓
○重点を置くべき内容の理解
・「中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説国語編」で確認
・「令和６年度　全国学力・学習状況調査問題」及び「報告書・調査結果資料」で確認
⇒　正答例を確認し、その背景にある指導事項及び評価規準を捉え、授業改善につなげる。

【実践事例①】

・学習過程の重点化
・学習改善を促す指導の工夫

＜単元名＞最も共感できる登場人物を紹介しよう～登場人物の設定の仕方を捉えて読む～（第２学年）
＜学習課題＞
「『ぐうちゃん』『父』『母』のうち、最も共感できる人物はだれか。
あなたの共感が他の読者（クラスメイト）に伝わるように紹介しよう」
＜指導の計画＞
「学習の見通し」→「**構造と内容の把握**」→「考えの形成、共有」→「振り返り」
⇒「知識及び技能(1)エ」を基に「思考力、判断力、表現力等Ｃ(1)ア」を育成する！
＜授業者の手立て＞
「生徒の記述を基に教師が作成したモデル」→「モデルに対する生徒の指摘（コメント機能）」
※１：「少年の日の思い出」で育成された多面的・多角的な視点を思いだせるための工夫
「前時に作成した内容について、着目すべき言動は適切か、人物像を表すことは適切かという点から振り返り、改善する」
※１：同じようなつまずきの生徒を集めて指導
※２：クラウド上のデータを見て、相談したい相手と相談
※３：一人で改善に集中
※４：より重点的に支援が必要な生徒に指導
「教室の動きが子どもの思考にリンクする」
※１：「形成的な評価」→「**つまずきを把握**」→「**必要な手立てを講じる**」→「自らの取組を改善」
⇒個に応じた多様な手立てを講じる！
＜学習課題設定のポイント＞
●客観的に捉える　●対比的に捉える

【実践事例②】

○指導事項〔思考力、判断力、表現力等〕Ｂ（１）ウ
「根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、
表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」
※思判表として「文章を完成する」必要はなく、書きながら工夫していくことを重視する
＜授業者の手立て＞
「子ども自身が自身の作成物のエラーに気付き、自ら改善するように仕組む」
※１：教師に相談
※２：他の生徒に相談
→自分の工夫が伝わらないことも…。完璧と思って作ったものが、実はそうではないことを目の当たりにするチャンス。対教師では素直に受け止めてしまい、主体的に捉えられない。
※３：個人で集中

【中学校国語科における授業づくり】

〔Step１〕「単元で取り上げる指導事項の確認」　〔Step２〕「単元の目標と言語活動の設定」
〔Step３〕「単元の評価規準の設定」　〔Step４〕「単元の指導と評価の計画の決定」
〔Step５〕「評価の実際と手立ての想定」

「自立した学習者」

自分で学び、自分で力をつけようとする主体的な学習者を育成する必要がある。
人生１００年時代…教えられてばかりの学びでは、予測不能の時代を生き抜いていけないのではないか。
「子どもたちと一緒に考えて力を付けていく」教育者として、胸を張って実践を重ねていってほしい。